

令和7年度古賀市総合教育会議 会議録

日時：令和7年4月25日（金）15時45分～17時15分

場所：古賀市役所 501～503 会議室

出席者：古賀市長 田辺 一城
教育長 長谷川 清孝
教育長職務代理 木村 真由美
教育委員 小山 和美
教育委員 松下 知弘
教育委員 松本 正敏
教育委員 狩浦 瞳

欠席者：なし

事務局出席職員：教育部長 桐原誠、教育総務課長 吉永ゆかり、学校教育課長兼主幹指導主事 今橋修、生涯学習推進課長 樋口武史、文化課長 甲斐健史、青少年育成課長 長崎英明、学校給食センター所長 野田高弘、教育総務課庶務係長 波多江由美

傍聴者：なし

主な議題：①古賀市教育委員会の令和7年度の取り組みについて

・令和7年度古賀市教育行政の目標と主要施策

②市長と教育委員による意見交換

・学校における働き方改革について

③その他

会議内容：以下のとおり

1. 開会のことば

【教育総務課長】15時45分 開会を宣言

2. 市長あいさつ

【市長】開催にあたり市長があいさつ

3. 教育長あいさつ

【教育長】開催にあたり教育長があいさつ

4. 確認・調整事項

①古賀市教育委員会の令和7年度の取り組みについて

・令和7年度古賀市教育行政の目標と主要施策

【市長】この会議は地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同志の協議調整の場で、市長部局と教育委員会が意思疎通をしっかりと行うことで、教育行政をうまく進めることを目的としています。古賀市の教育をより良きものにするため、また市民の皆さんに

対しても、わかりやすく提示できるよう、委員の皆様方の思いをざっくばらんにまた活発にご発言いただけたらと思います。

それではレジュメ 4、確認調整事項の①「古賀市教育委員会の令和 7 年度の取り組みについて」、教育委員会が毎年度策定している、古賀市教育行政の目標と主要施策の中から主なものについて説明を受けたいと思います。事務局からお願いします。

【教育総務課長】（資料から内容を説明）

【市長】これらの取り組みは教育大綱と連動しており、これに基づいて、教育委員会として、教育行政をしっかりと進めていただけたらと思います。

5. 市長と教育委員会による意見交換

学校における働き方改革について

【市長】次にレジュメの 5 番目意見交換になります。現状等を踏まえて、いろいろ自由に意見交換できたらと思いますが、「学校における働き方改革」でテーマ設定していますので、まずそこからお願いします。

学校におけるとしています。問題提起というか課題共有として、今、働き方改革が、社会全体で進めるべき局面にもう入っていると認識をしています。多くの自治体や企業はなかなか進めることができていないと思っています。そうした中でここに掲げてますように、古賀市は特に今年、多様な生き方を保障する働き方改革を理念として掲げて、市政運営を行っているところで、広報こが 1 月号の巻頭にも、この表題で私は文章を寄せています。

この大きな考え方のもとに市役所はもちろん古賀市の中で、行政に限らず、民間企業もそうした動きが起きていくような仕掛けを政策としてしています。教育現場においても、働き方改革を本市は全国でも先駆けて様々やっています。ということで、この働き方改革を全国でも先駆けている自治体と認識をされている状況で、視察・問い合わせが相次いでいるというところです。今、なぜ、そうなっているかを共有しながら、教育現場のさらなる働き方改革につなげることができたらと思っております。大きな考えとしては、公務員の志望者の減少で、国家公務員も地方公務員も行きたくない・選びたくない職場になっている。学校の先生も皆さんご承知の通り、倍率がとても低いという状況です。やはりブラックだということが広まってしまっている。そういう状況を今打開しようと、教育長を中心にやっていただけてすごくありがたいんですが、全体としてはそういう社会状況を変革しないと、教育現場で言えば、いい先生、いい人材が来ないということは、子どものいい学びと育ちにならないことに直結するので、これはもう絶対に進めなければいけないと思っています。

（資料から内容を説明）

最後、まとめです。申し上げてきたようにみんなでアイデアを出し合って、それぞれを交差させて、社会課題を解決するための、新しい価値を生み出していきたいと思いますというのが、今の古賀市のまちづくりの基本的な理念でありますし、教育の現場においても、今、提起で申し上げたことがヒントになって、よりよい子どもの育ち学びになるかと思い、お話をさせていただきました。ということで、ご自由に「働き方改革」で教育委員の皆様とやりとりが

できたらなと思います。

【狩浦委員】お話ありがとうございます。シェアという理念、とても素敵だと思いました。私からは、学校における働き方改革として、教材のシェアを提案します。10 年ぐらい前までは教科書の写真とか教材を拡大コピーして黒板に貼っていました。3、4年前には、教科書をスキャンして画面にして導入された電子黒板に映すことで紙を切り貼りしたりする手間は減りました。さらにもう 1 歩進んで、教科書の指導書についてるデジタル教材があれば、スキャンや PowerPoint に貼り付けたりする手間が減るので、予算が厳しいとは思いますが、でも、デジタル教材を市で購入していただければ、作業の手間は減らせると考えています。教師用のデジタル教材は、基本のセットに入ってる教科もありますが、購入しないといけない教科もあり、市で買ってもらえなかったものは、おそらく学校独自で買うことになってるんですけど、教員の時に、他校に入ってると聞いて、この手間は無いんだなとうらやましく思ったりしてたので、もし持続的に予算が取れるのであれば、教師用のデジタル教材を導入していただくと、教材づくりの時間が大分削減できるのではないかと考えています。

【学校教育課長】学校では枠配予算の中で購入可能で、使用している学校もあります。

【市長】狩浦さんの話は、市としてそういう前提にしたらいいいというお話ですね。

【狩浦委員】そうです。4 月に使用できるものがわかるので、以降購入しようとしても、後手後手になってしまうので、できれば一括で購入していただきたかったです。

【市長】確かに教える側も全部自分で作らなくても、シェアすればいい教材もたくさんあるので、独自に作ってこだわる部分と、同じのでもいいよという部分があるんですね。

【狩浦委員】そうです。

【市長】なるほど。ありがとうございます。楽したいというよりも、他のことをしたいということで、その手間がなくなれば、こだわりたいところに時間を使えるということですね。

【狩浦委員】それをベースとしてアレンジもできますし、結局、各教員が毎年度作ってるものは似たり寄ったりで、作り上げたら、去年のフォルダーに同じようなものがあつたのがっかりするので、それは無駄だなと思ってました。

【市長】本当にそれがいいか教育委員会内で揉んでもらってもいいとは思いますが、もし予算が上がってきたら、その時考えます。ありがとうございます。

【松本委員】今日、教育長からいただいた県の主要施策説明資料の中に、働き方改革の指針の趣旨目的の 1 つに、教職員が子どもや自分と向き合う時間を十分に確保し、学校教育の質を維持向上させることとあります。市長のランチミーティングの中でよく言われるのが主権者教育とか子どもアドボガシーですね。実際に行かれて、子どもたちの姿を見て、対話して聞いて感じての手応えや子どもたちの成長といいますか。市長から見られる何か手応えとか課題などがあれば聞かせて欲しいと思います。

【市長】まず、本物の市長が現れるということの子どもへ効果は、思っている以上に大きいという実感は受けます。普段、まちに一人しかいない人が来た、まるでテレビスターが来たかのような感じになります。市長と「会ったことがある」「話したことがある」ということ

が、最大のねらいですけれども、その現体験を作りたいと。そこで意外と社会のことは見てるといえるのは感じます。古賀ってどんなまちかという話になった時に、食品工業団地の話がポンと出たりするんです。小学生は子どもの言い方ですけど、3号線沿いに加工団地があって、たくさん物を作っていることをとらえていたりするんです。まちの良さを掴んでいる子はいます。そういうところに可能性を感じますし、掴めてない部分も多いんですけど、それを咀嚼して私が伝えています。最後に「民主主義社会における私」について理解できるような話をして、それが自分が何かを大人に言えればいいんだということには繋がっていると思います。先頃舞の里小学校に行った際に女の子が、「目が悪い人が3号線を渡ろうとしてたんだけど、音の鳴る信号機がなくて困ってた」みたいなことを言ったんです。終わった後に、校長室に行って地図で確認して、交差点を写真に撮って、吉田健一郎県議にLINEで送って、県警に伝えてもらいました。県警がその方に聞いてくれて、地下通路を使って困っていないことが確認できて、「付けはしません」という回答がきました。その当該児童には校長先生を通じて、これを返してもらいました。これが大事だろうと思っています。大人に物を言ったら考えてくれて、結論が返ってくる、このプロセスを伝えてくれるでしょうから、きっとその子は体感・理解するだろう。こういう積み重ねが、望むらくは、学校現場でこういうことが広がれば、当たり前に行われれば、投票率は結果的に上がるのではと思っているので、そういう可能性の場になっているのではないかなと思っています。

【松本委員】私は一番いつも危惧しているのは、投票率が低いことです。

【市長】ちなみに主権者教育の話で、今月、昨年度、高校生に市長のリバースメンターとなり、政策を提言してもらったプロジェクトを全国の市町村で初めて実施しました。その取り組みが今月優秀賞を受賞して東京で表彰状をもらいました。主権者教育は本質の話ですが、あまり見えてないんです。右から2番目の笑下村塾という会社をやって、朝まで生テレビなどに出演されていた「たかまつななさん」と私が知り合いになり、元参議院議員で群馬県知事の山本一太さんがまず群馬県でこれはいいと県で実施して、そのノウハウを持って全国の市町村で初めて古賀市が実施してみたということで、「たかまつななさん」が応募していたのを、後から受賞して知った訳です。主権者意識をどうやって世の中に広げていくかが、大事だと思っています。ちなみに昨日、品川区長の森澤恭子さんが群馬県・福岡県古賀市に続き品川区もやりますとSNSにアップしましたが、品川区くらいの大きなところが実施してもらえると、広がる可能性もまた広がりますから、こういった機会をどう広げていくかは大事なことです。それでその後セッションをして、200人から300人のいろいろな官民の人たちが来ていて、聞いてくれて、また持ち帰って事業になると思います。主権者教育はすごく大事で当たり前ですけど、あえてやっていかないと進まないだろうと思っています。

【松本委員】ありがとうございました。

【小山委員】男性の育休取得率100%は本当に素晴らしいですが、年休は福岡市では20日間のうち5日間は時間休がとれましたが、古賀市はどうか。

【教育総務課長】15分単位からで。同じく20日付与なんですけど、最大20日繰り越せま

すので、多い人は年間最大 40 日になります。

【教育総務課庶務係】時間休の上限はありません。

【小山委員】小学校は教科担任制を進めてもらって、時間休をより多く取れるように改善をしていけば、先生たちの働き方改革にも繋がるんじゃないかなと思います。

【教育長】5 時間授業にしたので、子どもの下校後に時間休が取れるようになりました。他の企業や役所と違って、自習になるのを避けたいのが、教員の考えです。それから夏休みに 10 日間閉校日を設けていて、県費負担教職員の夏季休暇の取得率は 100% です。閉校日にしたことでも部活もできませんので、年間を通して言えば時間休や夏季休暇等が他市・町に比べて古賀市は取りやすくなっている実態はあると思っています。

【市長】市役所も、何とか有給休暇の取得率を上げようと、副市長が庁議でもずっと言っているのですが、取得率は上がっているのではないのでしょうか。ありがとうございます。

【松本委員】教育予算の件ですが、古賀市は様々な働き方改革も含めて人的・物的な支援策を各学校にさせていただいて、先生方も働きやすいし、子どもたちも先生方にゆとりを持って向き合ってもらっていて、保護者、子ども、先生方にとっての三方良しが進められています。全体予算に占める教育部の予算の割合が他市町に比べて非常に恵まれてるのか、また市長、そして市議会の賛同を得る秘訣や、教育費使いすぎじゃないかとかの指摘はないですか。

【市長】結論から言うと、まず「ない」のですが、校舎の改修を行うときは増えますし変動します。教育長、割合を出そうと思えば出せるのですか。

【教育長】出そうと思えば、人的な配置だけとかそういう出し方はできますけども、今回増えたのはハード面で、小野小と花鶴小と東中にエアコンがつかますし、東中の体育館は大規模改修が入りますので一気に増えたし、来年度ハード面がなければ、金額だけにすると削減されたという見え方をどうしてもしてしまうので。

【市長】確かに他市町村と比較して、児童 1 人当たりの人件費の投じ方が高くなれば、より手厚く子どもを見てる指標にはなるかなとは思いますが。そういうのを探ってもいいですね、

【教育部長】特に古賀市の場合、今年度は教育総務費で、建築に係る部分を含め 12 億 5400 万円ほど増額されて、総額で 30 億ほど計上した形にはなってハードに関するところが多いです。その他にも人的支援なども、まとめることは可能です。

【市長】やっぱり他と比べてみたいですね。

【教育長】意外とやってるんです。今の部長が教育総務課長の時に、1 人当たりのプールの外部委託費用を全部調べてもらって、うちが一番安かったんです。いかにスタッフが事業所とかかけ合って、いい授業をより安かろう、よかろうの世界でやってるかという努力が垣間見えると思いました。私が学校教育課長の頃から、古賀市は人的な配置が多いと多くの議員さんが言ってくださり、これを下げるなっていうのが、我々に与えられてくるプレッシャーなんですけど、国のお金で中学校は今後 3 年で全部 35 人以下学級になりますので、そのお金が、今度どこに行くのかが我々の課題と思っています。全体の支援員や補助員などの人的配置は今手前みそですけども、他の市町に比べると多いんじゃないかなと思っています。

【市長】ありがとうございます。

【木村委員】市長の発想がやわらかく、考え方など驚きがいっぱいありまして、私の学校現場の働き方の感覚が、自分で古いなということを感じました。古賀市では学校現場での働き方改革は実際進んでると思うし、現場の先生方の意識も他の市町に勤めている先生方よりも、高いだろうと思っています。学校現場の人的支援も充実していると思っています。デジタルスキルが先生方によって個人差が大きいと思うので、高めていくような研修が必要とか、学校現場が頭を柔らかくして、パソコンを持った会議やペーパーレス化を進めることで上手く時間を生み出す努力をしながら、教材研究の時間とか授業時間はしっかり関われる時間を確保していけるような働き方改革を目指していった欲しいと思います。

【市長】ありがとうございます。デジタルスキルを高めるべく、この数年研修も行っていますが、40代の方が使えてないツールやついていけないものも、もちろんあり、時が解決すると多分に感じている面はあります。とは言え、教育長もこの前おっしゃっていましたが、何でもデジタルにすればいい話でもなくて、読み書きソロバンは集中力が高まる効果があるので、ペンを持って書くのは大事だと思います。ちょっと飛びますが、新聞記者が会見で取材しながらカタカタとメモを打っているんです。そういう環境なので仕方ないですが。皆さんも聞きながら書くときに全文書けないから瞬時に必要なことを抽出して整理していて、書きとったものを後から反芻して、もう一度理解できるようにメモをしている訳で、もともと新聞記者はそうしていたんです。記事に書くときのスピード感が、多分、頭の回転の型が違うはずなんですよ。今は全部メモを上げる必要があるから、起こす前提をまず書いて、そのあと会議が終わったら聞いて起こしてあげてるんです。この作業は、これからAIでなくなるとは思いますが、こういうことやってたら、人間の思考性に影響を与える気がするし、みんな新聞を読まなくなっているけれど、新聞紙で読むから、多角的な視点とか得られるはずで、好きな情報だけではない話になると思うんです。だからそういう意味では、学校現場で教科書がデジタルになるのかもしれませんが、何らかの形で紙と鉛筆で何かをやるとかは絶対残るべきだし、差別化というかそういうのが大事だなと思います。いかに時間を生み出すかは、今日のお話のテーマでもあるし、生み出した時間を余暇に使ってもいいのですが、いかに人間の生き方として、いい方向に持っていけるかという話が、本当に問われていると思いますし、できないところは、優秀な人材が来なくなる未来が待っている。ありがとうございます。

【松下委員】小野小学校の卒業式に出席をさせていただきました。卒業生は自分の6年間の振り返りと、一人一人先生に対してのお礼の声掛けをされた場面があって、卒業生も先生たちも感極まっていて、私もすごく本当に感動しました。卒業式には、保護者、地域の方々も、子どもたちを見守る中で、その児童と先生との繋がりの方の深さを目の当たりにして、この人生の要所所で行う儀式の大切さと、子ども、地域の方々、保護者の方々、先生が儀式を通して人としてそれぞれ成長できることをすごく再確認しました。働き方改革で、デジタル教材とか、諸行事の短縮がハードであれば、ソフト面は、行事や儀式を通して、先生たちと

子どもたちが同じ方向を向いて共感できる、そういう時間は、これからも変わらず先生たちも子どもたちに意識して大切にして欲しいと改めて感じました。小野小学校の先生を見て本当に羨ましいなと思いましたし、先生方の姿を見ても、誇らしく思ったところです。

【市長】ありがとうございます。先ほど創造性クリエイティビティで政策立案を高めるような話をしましたが、心の余裕がなければ、生まれない訳ですし、共感とか共鳴、本当に子どもと心が通う機会は快く働ける環境があるから、経験則上そういった可能性も広がるのではないかと。働き方の改善を現場で図っていければ、おっしゃっていただいたようなことは、もっと広がっていくかもと今お聞きして思ってたので、そういう現場が増える古賀市の教育でありたいなと思いました。入学式は舞の里小に行って、1年生が足をプラプラしていてかわいいな、この子たちにどうやって何を伝えるんだろうと思っていると、その後の劇「6年生レンジャー」が良かったです。〇〇レンジャーをベースに、言ってることは違うんですが、やり方は一緒で、「ありがとう」や「学習」などシチュエーションを変えて落ちを言つてと、見せ方で1年生をどんどん引き込んで、6年生の劇が1年生にさせているんです。大人にはできないなと思いました、おそらくそういうのを持っている先生がいないと6年生もできないことなので。入学式を見ていいなと思いましたね。中学校は東中の井上校長の式辞が良かったです。共創、共に創る話をされてていいなと、中学生には伝わったんじゃないかなと思って聞いていました。

【教育長】今のようなことは、教職員にゆとりがないとできにくいということなんです。働き方改革をして、多少なりとも先生方に時間的なゆとりと心のゆとりができるから、儀式的な行事で、こういう子どもたちを育てたいという、私はあえてそういうふうにしたいと。これが毎日6時間授業だったらできるのかなあというふうな思いもなくはない。

【市長】最後に、身近なところでできるシェアリングについて。市長室シェアを始める時に、僕の引き出しを開けたら物がたくさんあって引き出しにクリップとか溜まっていくんです。1人1個ハサミ・ホチキス・蛍光ペンいろいろ要りますか問題。で、今、僕の引き出しの中には、使い勝手がいいボールペンとその替え芯、あと毎日する新聞の切り抜き用のカッターと定規と糊、パソコン用のタッチペン、決裁用の印鑑です。もう一つ修正テープは、スケジュール帳のために、共有できるオンラインカレンダーも使いますが、予定がたくさん入って変更を生じるのでデジタルでやるより、見え消しもでき、紙の方が管理しやすい。これ以外のものが必要な場面には近くの課に行きます。経営戦略課はもうすでに課員みんなで文房具をシェアしていて、部屋に入ったところに置いてあるんです。これをやるのが働き方改革、オフィス改革でもあり、大事だと。人や物や場所をシェアするということで、締めたいと思ったら大分長くなりました。ありがとうございました。この場でいただいたご意見は教育行政に活かしたいと思います。

6. 閉会のことば

【教育総務課長】17時15分 閉会を宣言